

「新・リハビリテーション技術」 特集にあたって

「総合リハビリテーション」誌は、数年に1回増大特集号を発刊している。本号は「リハビリテーション技術」をテーマとした増大特集である。関連する企画としては、第20巻に「知っておきたいリハビリテーション・テクニック」がある。その内容は、機能訓練をどのように行うかに焦点が当てられていた。いずれも力作揃いの内容であったが、その時から、いつのまにか10年が経過している。今回も、リハビリテーション技術をテーマとした。しかし内容は機能訓練に限定していない。リハビリテーション医学分野の評価・診断・治療に関わる幅広い知見を対象としている。

企画において特に留意したことは、本特集を概観することによって、何が新しい技術であるかを確認できるようにすることであった。この作業は、編集委員の考えだけで進めることは不可能であった。そこで、日本リハビリテーション医学会専門医全員および本誌の編集同人、計778名に郵送でご意見をうかがうことにした。その結果、168通の回答が得られた。これら多数のご意見に基づいて特集の項目を選ぶことができた。なお、今回のように、広範な読者の方々のご意見に基づいて特集を企画することは初めてである。したがってご意見のなかには、日頃本誌を見て感じておいでの事柄や、専門家の立場からの本誌への希望が寄せられていた。こういったご意見は、今回の特集とは別に、本誌を良くするための貴重な資料として活用される手はずになっている。

さて、読者のご意見に基づくと、新・リハビリテーション技術は下記のように区分されるべきということになった。

1) 再確認：リハビリテーション医学分野の評価・診断・治療は、経験的知識に基づいて行われてきた部分が多い。しかし、従来の技術を、evidence-based medicine の視点から検証して、その有効性・妥当性を再認識した事柄

2) 新規開発：医学および周辺科学の進歩によって、従来と異なる新しい考え方や技術が実用化された事柄

3) 将来性：現時点では一般に普及してはいないものの、今後、リハビリテーション治療の有力な技術になると期待される事柄

本特集で執筆されている内容は、上記のいずれかに該当する。

この前文に続いて、是非、目次に眼を通していただきたい。新・技術であることが一目瞭然であると思う。執筆陣には、多分野にまたがる医師群、チーム医療に関わる多職種の専門家の方々が参加して下さった。今回の特集においても、依頼枚数を超える力作が少なくなかった。

本特集は、多くの方々のご協力を得て、リハビリテーション医学の今後を展望するための貴重な資料集になった。21世紀初頭にふさわしい内容と考えている。

「総合リハビリテーション」編集委員会